

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3270500402
法人名	有限会社 ケアステーション神有
事業所名	グループホーム 木いちご
所在地 (電話番号)	大田市久利町行恒346-1 (電話) 0854-84-0369

評価機関名	財団法人 出雲市ひらた福祉公社		
所在地	島根県出雲市平田町2112-1 平田福祉館2階		
訪問調査日	平成20年3月7日	評価確定日	平成20年3月19日

## 【情報提供票より】(20年 2月25日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 20 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 10 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	13.8

### (2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独	<input checked="" type="radio"/> 新築 / 改築
建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建て	1 階 ~ 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,450 円	その他の経費(月額)	19,800 円	
敷金	有( 円)	<input checked="" type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,315 円	

### (4) 利用者の概要( 2月25日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	8 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.6 歳	最低	73 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	大田市立病院、天津歯科医院、石東病院
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街に立地するこのホームは、「地域密着」という点を重要視し事業展開しており、近隣住民との散歩やホームへの来訪、保育所との交流、多様なボランティアの受け入れ等を通じ地域との連携を図っている。また、防災マニュアルを地域住民と共同で作成するなど、ホームも近隣住民も共に安心して生活が送れるよう、地域住民からの意見もホーム運営に反映させ、地域に根付いたホームを目指し取り組んでいる。職員は、利用者の意志や希望を第一に考えた支援を実践しており、それぞれの能力を活かした役割作りが見出されているとともに、共用空間での活動や、自室での趣味活動など、利用者が思い思いに自由に過ごしている様子が見られた。また、木目を基調としたホームの造りが、自然の温もりを感じさせると同時に、利用者、職員の笑顔や笑い声も多く見られ、家庭的な温かさを感じた。管理者を含め全職員が統一して、「利用者が開放的で穏やかに生活できるホーム」という意識を持ち日々の業務に取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では、プライバシーへの配慮面と緊急対応について等が改善課題としてあげられている。プライバシーの配慮については、さりげないカバーや声掛け等が行われているとともに、緊急対応についてもマニュアルが作成されるなど、改善が図られている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、職員共に評価の意義を十分に理解しており、定例の事業所内の会議において協議・検討、目線合わせがなされており、これを基に事業所の質の向上に取り組もうとする姿勢が窺える。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	行政関係、住民、入居者及び家族等をメンバーとし、定期的に開催している。今後の運営方法等、より地域に根ざし、また質の向上を目指した討議を行っている。ホームとしても、これらの意見を真摯に受け止め、ホームの意義、存在感という点を含め、地域密着に向けた活動を展開、反映させようと取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	来訪時の声かけ、また通信誌にもその旨を書き、家族等に遠慮なく意見を言ってもらえる体制を作っている。家族等から出された意見、苦情等は職員で話し合い共有し、前向きに受け止め、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の夏祭りや、行事への参加、保育所との交流会やホーム主催のイベント開催などをはじめ、住民と利用者の散歩や外出など、地域とともに歩んできた経過がある。また、地域と共同で防災マニュアルを作成するなど、連携も密に図られている。今後も、地域と共同でのマニュアル作成を予定しており、より地域に密着したホーム作りを行おうと取り組んでいる。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体として「安心と尊厳のある・・・」という理念が定められており、またホーム独自にも月ごとに理念が定められるなど、これを基としたケアが行われている。ただ、地域密着型サービスとしての理念は制定されていない。	○	介護保険法改正で、これまでのグループホームの基本方針が小規模多機能と同様に、「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」という表現に改められたことを踏まえ、「地域で生きる」ということを念頭に置き、常に地域の状況の変化に則し、対応できる理念を追求されることを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念は、職員間の共有がなされている。また、管理者、職員共に、この理念を基として、日々の業務にあたっており、より地域に溶け込もうと取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭りや、行事への参加、保育所との交流会、ホーム主催のイベント開催など、地域との付き合いを重要視し、より地域に密着したサービス提供を行うよう、積極的に取り組んでいる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員ともに、評価の意義を理解しており、全職員で自己評価を行い、協議・検討を行っている。より利用者本位の質の高いサービス提供を目指しつつ、前回の外部評価で指摘があった事項に関しては、改善に向けて積極的な取り組みがなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者代表や家族代表をはじめ地域代表や行政職員等をメンバーとし、2ヶ月に1回定期的に開催している。会議では、現況報告や問題点の検討等が行われ、また、自治会等からの意見も多く出されており、防災マニュアルを共同作成するなど、この会議をサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所担当者と度々協議するなど、密に連携をとり、サービスの質の向上を目指し取り組んでいる。あわせて、市から派遣される介護相談員との懇談も行い、より連携を図ろうと取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	定期的なホーム便りの発行をはじめ、担当者による手紙の送付、家族等の来訪時の報告、電話連絡など、それぞれの状況に合わせた報告がなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見をはじめ、地域住民の意見も多く寄せられている。ホームとしても、これら意見を運営に反映させようと取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者、管理者共に、ホームの特性を十分に理解しており、利用者への影響を考慮し、離職者を最小限にとどめようと取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会には、原則全職員が参加するようにしており、外部研修へも積極的に参加している。職員会議での復命(文書報告)研修も実施されており、職員個々のスキルアップを目指し取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護サービス事業者連絡協議会に加入し、研修等へ積極的に参加するとともに、サービスの質の向上を目指して。また、グループホーム部会を通して職員の交流も行われるなど、ホームの質の向上に向けた積極的な取り組みを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの見学や、体験利用など馴染みの関係をつくった上でサービスを開始する体制は取られてはいるものの、様々な事由により、サービス開始前に利用者の自宅を訪問しての情報収集がなされていないケースが多い。	○	いきなりサービス提供ありきではなく、場合によっては見学や、自宅へスタッフが何度か行ったり、遊びにきてもらったり、「馴染みの関係」を作ってからサービス提供が望まれる。加えて、「地域の中での生活」や「生活の継続性」を考えたとき、利用者の送ってきた生活を捉えておくことは何よりも必要である為、自宅を訪問する等の情報収集が望まれる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は支援を受ける一方ではなく、人生の先輩として職員へ話しをしたり、指導する。また一緒に作業を行うなど、共に支え合い過ごしている場面が多く見られた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個々の生活歴や性格等の把握がなされ、それぞれの意向に沿った支援がなされている。訪問時にも、こたつで横になる、おやつ作りを行うなど、利用者が思い思いに過ごしている場面が多く確認できた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画は、本人の生活歴や趣味等の把握がなされ、それを基に担当職員が原案を作成し、職員全員で話し合わせられ作成されている。また、随時本人や家族等の要望を聞き、担当者会議、カンファレンス、モニタリング等を行い、それを職員間で共有し介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の定期的な見直しをはじめ、状況に応じた随時見直しなど、それぞれの現状に即した計画作成がなされている。また、毎月開催される職員ミーティングでも、各利用者の状況が確認され、これを見直しに活かす取り組みがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族等の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応するなど、事業所の機能を活かした支援がなされている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前の主治医を継続してかかりつけ医としている。また、主治医等とも密に連絡をとり、緊急対応をはじめ、往診依頼など、適切な医療を受けられるよう、ホームと医療機関との関係が構築されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末ケアについては、協議がなされ、ホームとしてのできる範囲が定められるなど、取り決めはあるものの、方針としての文面化されたものはない。ただ、この取り決めを基に、本人、家族等には説明が行われ、対応している。	○	重度化や終末期への対応は本人や家族にとって大きな問題である。ホームとしての方針を打ち出し、マニュアルやフローチャートの整備など、ホーム側の考えや意向を明確にすることで、重度化の時期を迎えた際に問題が生じないよう、早い時期から対応等に関して話し合う機会を持ち、関係者全体で取り組むことが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティング時に利用者の誇りや尊厳について話し合い、職員の意識向上を図っている。また、入居者それぞれの生活歴や性格等の把握がなされ、個々を尊重した声掛け等を行うなど対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々の能力や、意向の把握がなされ、その能力を活かし役割を見出すなど、それぞれに対応した支援がなされている。併せて、できるだけ本人の意に沿う支援を行うよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も入居者ともに食卓を囲み、和やかな雰囲気です事をを行うなど、楽しむことができる支援がなされている。また、準備や後片付けも入居者とともにいき、支援されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴や夜間入浴など、時間の制限なく利用者それぞれの希望に沿った支援がなされている。また入浴拒否傾向にある利用者に対しても、利用者の行動や気分を見ながら、適切な対応がなされている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や食事の後片付け、ホームの掃除など、一人ひとりの生活歴の把握がなされ、それぞれの力を発揮できるよう役割が見出されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出希望者に対してはそれに合わせ対応している。また、単独でタクシーを利用し外出する利用者もいるなど、関係者と連絡をとり安全面も配慮した上で、できる限り利用者の意思を尊重した支援を行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関が施錠されることはなく、入居者、家族等とも自由に出入りができる。夜間については、防犯上の理由により施錠されているが、家族来訪時の対応などは支障がないよう対応されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に訓練を行いつつ、地域住民への協力要請や地域と共同で、防災マニュアルを作成するなど、対策が講じられている。今後さらに地元と共同で、風水害マニュアルを作成することとなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は必要に応じてチェックし把握している。また、利用者それぞれの咀嚼能力に合わせて食事形態も柔軟に対応されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木材をふんだんに用いた日本的な共用空間であり、壁には多くの絵画や利用者による作品などを掛け、目を楽しませる工夫が見られる。食堂を兼ねた居間は吹き抜けで、落ち着ける環境である。各所に季節の花も置かれており、季節感も感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していたタンスや棚を持ち込むなど、それぞれの状況にあった居室作りがなされている。居室によっては、畳敷きの居室もあり、利用者ごとに良い雰囲気を出した居室作りがなされている。		